

R 8 年 7 月 放 送 分
「防衛補佐官と東北防衛局について」
(日本の防衛 Q & A)
(自衛隊百科)

R8.6.26 収録

【パーソナリティー】

本日は、「防衛補佐官と東北防衛局について」をテーマに、東北防衛局防衛補佐官の石井 1 等陸佐からお話を伺います。
よろしくお願いします。

【防衛補佐官】

よろしくお願いします。

【パーソナリティー】

それでは、これまでの経歴を簡単にご紹介いただけますか

【防衛補佐官】

はい。出身は福島県の郡山市です。防衛大学校を卒業してから現職まで 14 回転勤し、北は北海道から南は九州の長崎まで全国各地で勤務経験があります。

【パーソナリティー】

14 回もですか。全国各地でどのような勤務をされたのですか。

【防衛補佐官】

はい、私の職種は、陸上自衛隊で施設科と呼ばれる職種になります。皆さんにイメージしていただくには、「施設」という言葉より「土木」という言葉を使った方が、分かりやすいと思います。

自衛隊の部隊では、指揮官、幕僚として訓練の企画立案や建設機械などを使って道路や橋などを造ったりしていました。

この間には、様々な災害派遣にも参加しましたし、部外工事と呼ばれる町や村のグラウンドなどの造成工事なども行いました。そのほか、国連の事業でアフリカのケニアにおいてガーナやナイジェリアなどの軍人に建設機械の操縦訓練を行ったこともあります。

また、自衛隊の学校の教官として、部隊の運用や建設機械の補給や整備に関する教育や、中央の組織で装備品の補給整備に関する業務を担当するなど、いろいろな勤務経験があります。

【パーソナリティー】

海外での勤務など、多方面なところでご活躍されてきたのですね。

ところで、この番組に自衛官の方が登場するのは、だいぶ久しぶりになるのですが、東北防衛局にはどのくらいの自衛官の方がいらっしゃるのですか。

【防衛補佐官】

はい。東北防衛局では約230名が勤務しており、その内、陸・海・空の自衛官が10名以上勤務しています。

【パーソナリティー】

やはり、事務官や技官の方が主体の組織なのですね。

【防衛補佐官】

ええ。東北地方の防衛行政を担う東北防衛局では、迷彩服を着た自衛官ではなく、防衛行政に携わる事務官や技官が主体となり勤務しています。

事務官や技官は、陸・海・空自衛隊の部隊での勤務経験がほとんど無く、災害派遣や訓練で部隊がどのような活動を行うのか、見えない部分が多くあります。しかしながら、防衛行政を行うにあたり、部隊のことが分からないと困ることが多々あります。

防衛補佐官は、部隊で培った経験や知識を生かし、防衛局の各種業務について、助言を行うことを役割としています。

【パーソナリティー】

先ほど、部隊での色々な勤務経験を伺いましたが、豊富な勤務経験を生かして、事務官や技官の方のサポートをされているのですね。サポートをするに当たって、大切なことを教えていただけますか。

【防衛補佐官】

はい。部隊で勤務する自衛官も防衛局で勤務する事務官も、地域の皆様から見れば同じ防衛省・自衛隊の隊員です。地域の皆様を前

にして、部隊と防衛局がちぐはぐな対応をしていては、地域の皆様から信頼を得ることはできません。

そうならないように、部隊のミーティングに参加したり、部隊のカウンターパートと情報を共有したりし、部隊と防衛局が少しでも連携できるように努めています。

【パーソナリティー】

地域の皆様のご理解とご協力を頂く上で、部隊と防衛局のしっかりとした連携が、欠かせないわけですね。

【防衛補佐官】

はい。自衛官という立場から、部隊と防衛局をつなぐ架け橋となるように、心掛けています。

【パーソナリティー】

ところで、東北防衛局は自衛隊の部隊とは、だいぶ毛色が違うかと思いますが、働いてみて、どのような印象を受けられましたか。

【防衛補佐官】

はい。東北防衛局では2年半勤務しましたが、地域の皆様の声を何よりも大事にして、それぞれが業務を行っているなと感じています。

一例をあげれば、自衛隊などが砲撃や射撃、戦車の走行訓練を行うことで、演習場内の山などが荒廃し、山の保水力が低下することがあります。その結果、降った雨が流れやすくなり、洪水被害や土砂流出被害、用水不足が発生しやすい状態になることがあります。

このような場合、防衛局は、自治体が行う河川の改修や砂防ダムの構築、貯水用ダムの整備、飲料用水の不足や汚濁を防止・軽減するための施設の造成など、周辺地域の生活環境の整備の補助を通じて、住民の皆様の生活の安定や福祉の向上に寄与できるよう取り組んでいます。

東北防衛局で働く一人一人は、演習場や基地の周辺で生活する地域の皆様が何を感じているのか、何に困っているのか、常にアンテナをたてて、地域の皆様の声に耳を傾けているなと感じています。

【パーソナリティー】

東北防衛局では、地域の皆様の声を大事にされているのですね。

【防衛補佐官】

はい。地域の皆様のご理解とご協力が無ければ防衛行政、ひいては防衛省・自衛隊の活動が成り立たないことを、防衛局の職員はみんなよく分かっています。

【パーソナリティー】

演習場や基地で訓練をするためには、地域の皆様のご理解とご協力が不可欠だということですね。

【防衛補佐官】

そのとおりです。自衛隊は、大規模災害や有事に備えて、演習場や基地で日々厳しい訓練を積み重ねています。これは、地域の皆様のご理解とご協力があるからできることなのです。

訓練は「練度」を生み出します。もし訓練ができなくなれば、大規模災害や有事など、国民の生命と財産を守るべきときに、自衛隊は力を発揮することはできません。

【パーソナリティー】

自衛官、事務官、部隊、防衛局と、立場や役割は異なりますが、国民の生命と財産を守るため、一つになって頑張っているのですね。

【防衛補佐官】

はい。立場や役割は異なっても、思いは同じだと思います。

【パーソナリティー】

ありがとうございます。

それでは最後に、今後の抱負を教えてください。

【防衛補佐官】

はい。これからも、東北防衛局が東北地方における防衛行政の拠点として、地域の皆様からご理解とご協力をいただけるように、防衛補佐官の立場からしっかり支えていきたいと思っています。

【パーソナリティー】

本日は東北防衛局防衛補佐官の石井 1 等陸佐からお話を伺いました。どうもありがとうございました。

【防衛補佐官】

こちらこそ、どうもありがとうございました。

【パーソナリティー】

このコーナーでは、よりよい内容にしていくため、ラジオをお聞きの皆さまからご意見・ご感想を募集しております。お聞きのコミュニティ放送局までご連絡ください。